

# 鶴城中だより

文責  
校長 田上明利  
No.10

## 今 その姿が美しい

**二度とない人生だから**

二度とない人生だから  
一輪の花にも  
無限の愛をそそいでゆこう  
一羽の鳥の声にも  
無心の耳をかたむけてゆこう

荒尾市出身の坂村真民さんの二度とない人生だからという詩の一節です。「癒やしの詩人」と評される彼の詩には共感する部分がたくさ

一方、山本有三の小説「路傍の石」の中に、卒業式の帰り道、前途を悲観し泣きじゃくる主人公の吾一少年に、担任の次野先生が、

：世界に何億の人間がいるかも知れないが、愛川吾一というものは、世界中にたった一人しかいないのだ。だが、一人ぼっちとは違う。仲間がたくさんいる。……たった一人しかいない自分を、たった一度しかない一生をほんとうに生かさなかったら、人間生まれてきた甲斐がないじゃないか。……これからのおまえの人生はおまえのこの二つの手で切り開いて行かねばならぬ。分かったか。

と話される下りがあります。吾一少年に、やる気を奮い立たせた言葉です。つまり、二度とない人生、たった一度しかない人生だからこそ中学生という時期に、何かに打ち込むことが大切なのです。

今、三年生は、志望校への合格に向け、授業はもちろん朝夕の課外もがんばっています。部活動生は、新チームとなり次の大会に向けて精一杯頑張っています。一日一日を大切に、よく学び、体を鍛え、すべてに一所懸命に打ち込む鶴城中生徒に。

お待ちかねの自衛隊による給食支援でカレーライスを食べさせていただきました。おかわりする生徒がたくさんいました。ここまでで、二、三年生と地域の方は終了。活動11からは、また一年生のみ参加で、「地域の災害とボランティア活動」で市社会福祉協議会の方の講話や高齢者の疑似体験などをおこないました。活動12は仮設テントの体験ということで、運動場に自衛隊のテントを張っていただき3班に分かれて寝ました。

三日目は、朝6時起床。朝のトレーニングから始まりました。朝焼けの中を走る姿は、青春ドラマのワンシーンをみるようでした。活動13は、朝食としてカートンドックを作り、スープと一緒にいただきました。活動14は、「避難所で自分たちに何ができるか」の演題で元広安西小学校長で現在山都町の井手教育長の講演を聞きました。最後の活動15は、このキャンプでの気づきを班で話し合います。

# 防災教育キャンプ

10月26日から28日にかけて、山鹿市教育委員会（社会教育課）主催による防災教育キャンプを行いました。一年生は全日程を、二、三年生及び約百名の地域の皆様に、27日の午後のみ参加していただきました。

この防災教育キャンプは、九州北部豪雨や熊本地震の教訓をもとに、地域で想定される災害の疑似

体験をとおして、災害時に適切に行動できる知識や能力を身につけるとともに、地域の絆を深めることを活動趣旨としています。

初日は、オリエンテーションのあと活動1として山鹿市水道局給水車による「飲料水給水確保」でした。各自三日間で使う水を確保しました。活動2は、「過去の災害に

学ぶ」ということで国土交通省菊池川河川事務所の方の講話と実験・演習がありました。活動3の夕食は、乾パンとクラッカーのみ。活動4は、菊池少年自然の家の指導員によるリュックの中身紹介があり、一日目が終わりました。

二日目は、6時起床。活動5として朝食（アルファ米とスープ）を食べた後活動6「防災グッズを手作りしよう」では、新聞紙でスリッパを作った

り、キッチンペーパーでマスクを作ったりしました。活動7は、昼食の「空き缶炊飯」にチャレンジ。なんとか食べることができました。午後からは、二、三年生と地域の方も参加し、活動8「ロープ結び」「応急処置」「救急蘇生法」の三コーナーを経験してもらいました。活動9では、元気象庁職員の方の講話「気象と地震について」を聞き、自衛隊のパネルや装甲車などを見学しました。活動10は、

上記のように、たいへん



